

1～3号機放水路溜まり水の調査及び対策について

2015年12月24日

東京電力株式会社

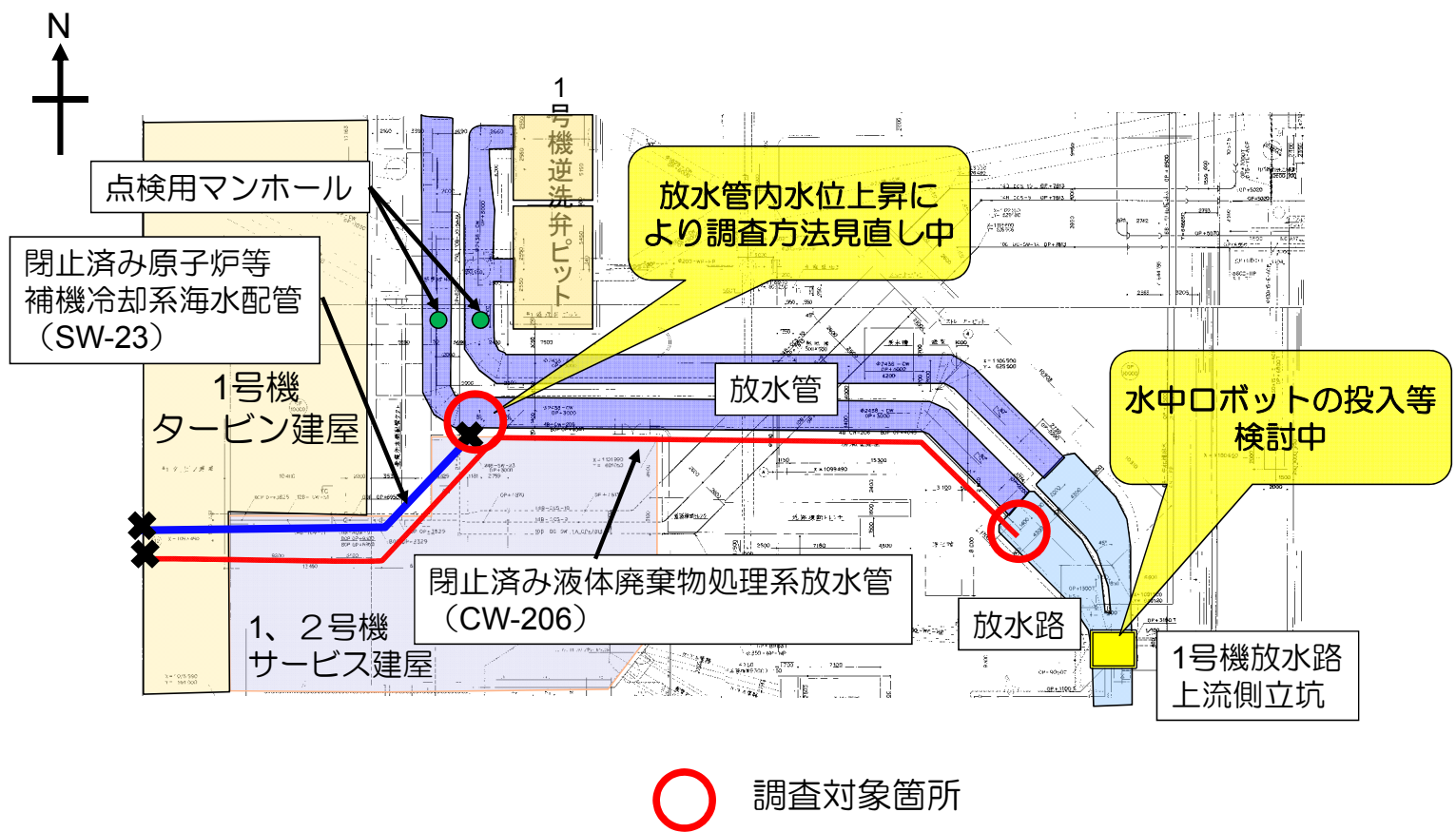


東京電力

1-1. 1号機放水路上流側立坑における流入経路調査について

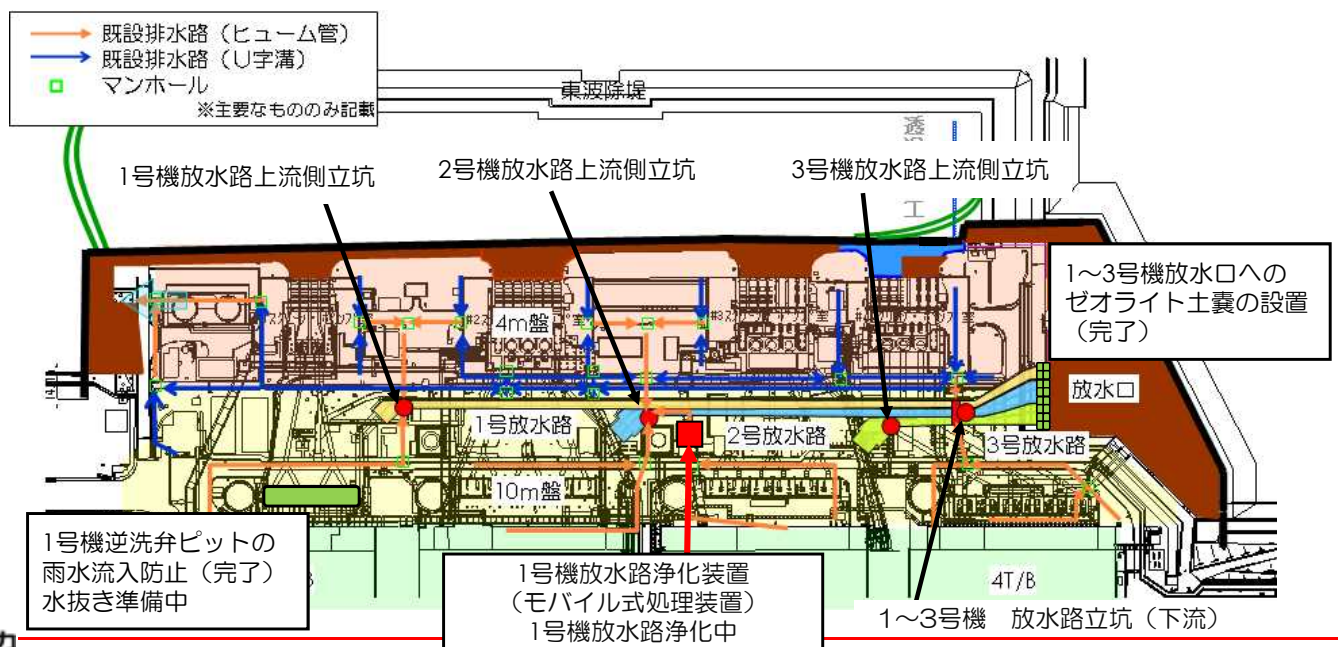
- これまでの調査で、タービンルーフトレン、排水路流入水、逆洗弁ピット及び放水管など、汚染水の流入経路の調査を行ってきたが、セシウム濃度上昇の原因は特定できていない。
- 建屋側からの配管も含めて、経路の洗い出しを実施し、過去に閉止した配管の存在を確認したため、調査を計画中。
- 当初検討していた、音響探査や放水管に立ち入っての調査は、海側遮水壁閉合に伴う放水路の水位上昇により、放水管内部がほぼ水没している状況であるため困難な状況。
- 流入の有無を確認する方法について、再度見直し検討中。

1-2. 閉止済み配管の調査位置図



2. 1～3号機放水路溜まり水対策の状況

- 放水路の溜まり水対策として、濃度の高い1号機放水路を優先的に対策を実施。
- 放水口については、1～3号機全てにゼオライト土嚢を設置済み。
- 1号機放水路浄化装置（モバイル式処理装置）による浄化を、11月27日より開始。
- 浄化開始までの間、1号機放水路上流側立坑に設置していたセシウム吸着材（約11.5kg）は、11月4日に撤去。



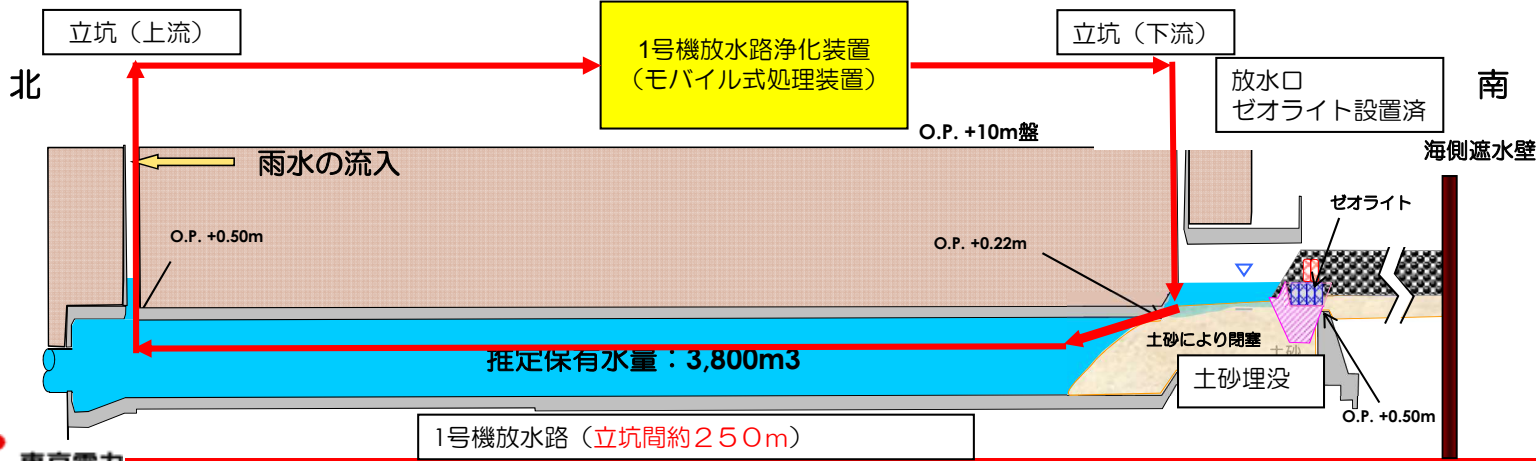
3-1. 1号機放水路浄化装置による放水路の浄化について

- 1号機放水路浄化装置（モバイル式処理装置）は、11月27日より運転を開始。12月11日15時までに2928m³を処理。
- 放水路浄化装置の入口、出口の水質は以下の通り。

入口：	Cs-134	3.1×10 ² ~1.6×10 ³ (Bq/L)
	Cs-137	1.5×10 ³ ~7.2×10 ³ (Bq/L)
	Sr-90	6.7×10 ² ~1.1×10 ³ (Bq/L)
出口：	Cs-134	ND(<4.1~<4.6) (Bq/L)
	Cs-137	ND(<7.6) ~ 2.1×10 ¹ (Bq/L)
	Sr-90	5.0×10 ¹ ~2.0×10 ² (Bq/L)
- DF（入口濃度／出口濃度）は、Cs-137で10²~10³程度、Sr-90で<10程度※
- ※ 現在、Cs吸着塔を利用。今後、Sr/Cs吸着塔に切り替え予定。
- 分析結果から、放水路浄化装置は計画通りの浄化性能を発揮。

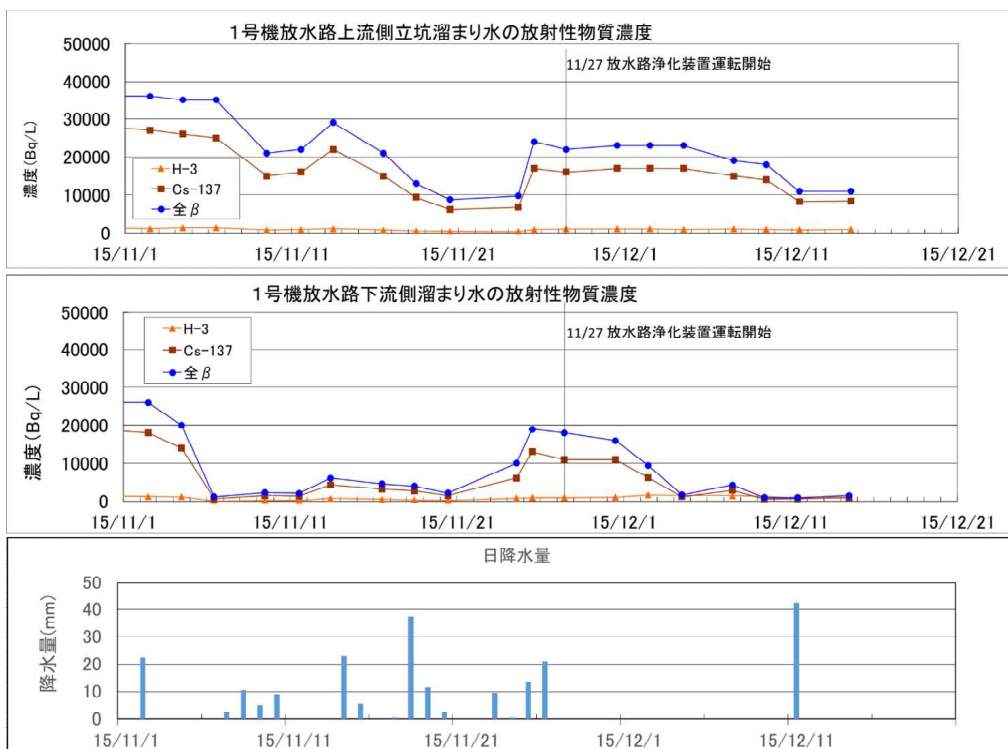


1号機放水路浄化装置（吸着塔ユニット）



3-2. 1号機放水路浄化装置浄化開始後の状況

- 1号機放水路の溜まり水濃度は、上流側、下流側Tともに低下傾向。
- 引き続き、放水路浄化の状況を確認していく。



4. 実施工程

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月～	備考
1号機流入源調査	1号機調査計画		1号機調査実施				調査計画策定中
タービン建屋屋根面等追加線量率調査		4号機追加データ採取完了(12/2)					4号機は、屋上に人が立ち入って測定を実施。調査結果とりまとめ中。
1号機逆洗弁ピットの溜まり水対策	雨水流入抑制は、4月に完了済み		1号機逆洗弁ピットの水位のモニタリング				溜まり水一部回収 溜まり水の回収については、他の溜まり水処理と工程調整中 水抜き完了まで継続予定
1～3号機放水口へのゼオライト設置	3月に完了済み						
モバイル式処理装置による1号機放水路浄化	工事	11/27 浄化開始	セシウム吸着材による浄化(11/4撤去)				・11/27よりモバイル式処理装置による浄化を開始 ・モバイル処理装置稼働までの是正処置としてセシウム吸着材による浄化を実施(11/4に終了)
モニタリング	放水路の水質のモニタリング						浄化処理終了まで継続実施

